

意見募集の結果公表

市民等の意見の概要	件数	意見に対する釧路市の考え方
<p>再生可能エネルギーの導入を、単なる「場所の確保」で終わらせず、市民の生活負担(ゴミ出し・町内会費)の軽減、困窮者支援、そして中心市街地の賑わい再生へと繋げる、釧路独自の「循環型都市モデル」を下記のとおり提案します。</p> <p>① 24時間稼働・小規模バイオマス併設型「エネルギーステーション」の設置</p> <p>機能:24時間いつでも資源を出せる清潔な拠点を整備します。そこに小規模なバイオマス発電施設等を併設し、地域のゴミをその場でエネルギーに変えます。</p> <p>排熱利用の「都市型農園」:発電過程で出る「排熱」を利用して、冬でも野菜が作れる温室(畑)をステーションに併設します。</p> <p>② 雇用創出と社会支援の仕組み</p> <p>地元の雇用:ステーションの維持管理や農園での作業で、地元の学生や高齢者、就労支援が必要な方々の雇用を生み出します。</p> <p>互助のポイント還元:資源を出して貯まったポイントを、農園で採れた野菜や、生活困窮者・学生への食料支援、さらには施設内のWi-Fi・電力利用に充てられるようにします。</p> <p>③ 町内会の負担解消とエネルギー還元</p> <p>維持費の相殺:ステーションで生んだエネルギーを、町内会が負担している「街路灯(防犯灯)」の電力に充て、町内会の経済的・管理的負担をゼロにします。</p> <p>④ 既存制度と連携した「地域通貨・ポイント」の展開</p> <p>経済の循環:新たにポイントを作るだけでなく、市の「健康ポイント」等の既存制度と統合。貯まったポイントを地元のスーパー、市内の駐車場、公共施設の利用料として使えるようにし、地元経済を活性化させます。</p> <p>⑤ 北大通を起点とした「学びと周遊」の拠点化</p> <p>都市再生:北大通にモデルとなる拠点(カフェ併設)を設置し、「こども遊学館」や「市立図書館</p>	1	<p>【その他】</p> <p>①～⑤ ご意見として伺います。</p> <p>⑥ 本ゾーニングマップ18頁に記載のとおり、本ゾーニングマップにより定めたゾーニング等に基づき、環境の保全を徹底しつつ、地域に裨益のある形で再生可能エネルギーの導入を推進し、当市での循環経済の実現を目指しております。</p>

<p>」と連携。環境と経済の仕組みを子供たちが学べる「知の周遊ルート」を構築し、中心市街地に人の流れを取り戻します。</p> <p>さらに、最新の小型油化技術を導入し、ペットボトルのキャップ等の廃プラスチックをその場で燃料や電気に変換する「見えるエネルギー拠点」を整備します。これにより、ゴミが直接的に街を照らす灯りやWi-Fiの電力に変わるプロセスを子供たちが体験的に学べる場とします。</p> <p>⑥ 自然との調和(抑制区域の設定)</p> <p>環境保護:湿原や景観を守るための「抑制区域」は厳格に設定し、あくまで「市民の暮らしの圏内」でエネルギーを循環させるモデルを優先します。</p>		
<p>広大な森林資源を持つ釧路市の上記素案において、熱源としての木質バイオマスに関して、限定的として検討さえされていない理由はあるのであろうか。このゾーニングマップは市民のこれからの生活を考慮したモノと言えるものであろうか。家畜の糞尿を利用したバイオガスの方が限定的と考える。</p> <p>木質バイオマスの利用として、火力発電と薪ストーブ、ペレットストーブがある。薪ストーブとペレットストーブは、炭酸ガスを削減する。</p> <p>薪ストーブは一台年間で3トン以上の炭酸ガスを削減する。薪の代金は年間10万円ほどであり、市民の経済的負担を減らす。また、灯油使用量を減らして、薪ストーブ一台で25万円ほどの地域経済効果がある。災害にも強く、電源消失にも暖房が可能である。</p> <p>薪ストーブの木質バイオマスとして広葉樹が必要である。釧路市の広大な森林資源の多くは針葉樹であり、広葉樹が比較的少ない。広葉樹を薪ストーブの薪として利用するには、廃業が多い牧畜農家の農地を利用して、広葉樹、特にシラカバを植林し、肥培管理すれば農地のままで可能であり、様々な助成もある。</p> <p>シラカバは、成長が早く10年で10センチの太さとなり、利用できる。切った断面からさらに芽がでてさらに早く育つ。ある程度増えれば、タネが飛び自然と増えていく。薪の作成も、農地の多く</p>	<p>1</p>	<p>【その他】</p> <p>釧路市周辺の木質バイオマスについては、その多くが既存発電所に供給されており、また、未利用廃材は供給が不安定のため、本ゾーニングマップではより利活用の余地がある家畜糞尿をゾーニングの対象としております。</p> <p>本ゾーニングマップにおいては、高山地区を太陽光発電の促進エリアと設定しており、農地は太陽光発電設備の促進エリアには設定しておりません。</p> <p>阿寒地区・音別地区につきましては、畜産バイオマスの発生地近傍であり、自然環境や生活環境への影響が甚大でないエリアを畜産バイオマスに係る促進エリアに設定しています。</p>

<p>が平地であることから比較的軽作業である。軽トラックとチェンソーがあれば、薪を割る必要もなく薪を作成できる。女性の就労も可能である。</p> <p>ゾーニングマップの案では、農地に太陽光発電パネルを設置するとしているが、地域外の企業の設置では地元還元されず、中小規模の発電所では、パネルが廃棄されない危険がある。釧路市の責任となる可能性がある。</p> <p>音別町の、阿寒町のゾーニングマップの農地に、肥培管理の植林事業を設定してはどうか。</p>		
<p>釧路市の全面積に占める促進区域+調整区域Cはわずか2%台にとどまっており、全体として慎重な設定であるとの印象を受ける。</p> <p>これは昨今のメガソーラー問題も踏まえたものであると考えられるが、釧路市の重要な資源である自然環境にも十分配慮されたゾーニングであると評価できる。</p>	1	<p>【その他】 ご意見として伺います。</p>
<p>これまで釧路における再エネの大部分は域外事業者によるもので、地元経済便益が少ないことが課題であった。</p> <p>本報告書で提言している地域裨益型エネルギー会社が地域の再エネを地元へ供給するというコンセプトは、地元経済界としても長年望んできたものであり、高く評価したい。</p> <p>地域裨益型エネルギー会社をコンセプトで終わらせず、その設立を確実にするためにも、今後取り纏める最終報告書においては、設立へのマイルストーンを明示すべきである。</p>	1	<p>【その他】 本ゾーニングマップは、環境保全を徹底しつつ、適切な範囲で再生可能エネルギー開発を促進するために、再生可能エネルギー開発を制限すべきエリアや促進すべきエリアを定めることを目的としたものです。</p> <p>地域裨益型エネルギー会社の設立につきましては、どのようなことができるか検討を進めてまいります。</p>
<p>地域裨益型エネルギー会社の設立にあたっては、民間事業者の自助努力だけでなく、市としても継続的に支援することが重要である。</p> <p>先行する他自治体では、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共施設における電力契約の新会社への切替え ・ゴミ焼却発電施設の余剰電力の提供、市有地の電源設置場所としての提供 ・国等の補助制度の共同提案 ・当初5年程度の新会社運営費補助 <p>等の支援を通じ、新会社が安定的な需要と事業基盤を確保できるよう支援している。</p> <p>市も主体的に関与することで、再生可能エネ</p>	1	<p>【その他】 ご意見として伺います。</p>

<p>ルギーを地元で根付いた産業として育成し、経済循環を実現すべきである。</p>		
<p>本報告書では、再生可能エネルギーの地産地消の推進が掲げられているが、これに加え、地域内で発電した再生可能エネルギーを地域外へ供給する視点についても明確に位置付けるべきである。</p> <p>また、釧路港が有する港湾機能や立地上のポテンシャルを活かし、水素・アンモニア等の次世代エネルギーの貯蔵・備蓄設備の整備を進めるとともに、周辺地域へのエネルギー供給拠点としての役割や可能性についても、本報告書の中で示すことが望ましいのではないか。</p>	<p>1</p>	<p>【その他】</p> <p>本ゾーニングマップ18頁に記載のとおり、このたびのゾーニング等に基づき環境の保全を徹底しつつ、地域に裨益のある形で再生可能エネルギーの導入を推進し、当市での循環経済の実現を目指しております。</p> <p>水素・アンモニアの活用につきましては、令和6年度に策定した釧路市再生可能エネルギー基本戦略においてロードマップを示しており、今後、どのようなことができるか情報収集を進めてまいります。</p>